

教科名	対象学年	使用した資料（参考にした資料）	TYPE
英語	中学2年	授業アイデア集【中学校版】p47, 48	Ⅲ
授業内容	既習表現と新出表現を活用して、状況や場面に応じた英語で表現しよう。		
身に付けたい力	状況や場面に応じて適切な英文を組み立て表現する力。		

教科名	対象学年	学校名	課題の見られた問題	TYPE
英語	2年	本市市立本庄東中学校	25年度 県	Ⅲ
授業の内容	既習表現を活用して、状況や場面に応じた英語で表現しよう。【帯活動】			
身に付けたい力	状況や場面に応じて、適切な英文を組み立て表現する力。			

【事例1】 絵の描写 「絵で示されたものが何かが分かるように伝えよう。(speaking)」

《活動の目的》
目標文の文構造や文法知識の理解に終わらず、伝えたい内容を意識して目標文を使う。(活用することによって定着を促す)


《実際の活動場面》(例) 後置修飾(不定詞の形容詞的用法)

【授業のポイント①】
第1ヒントを“This is something to+動詞の原形”の形で話すことにより、目標文の定着を目指す。

Um.....???

This is something to...write.
It's long. I used it...when~.

《手順》



- ① ペアを作り、一人は黒板に背を向ける。
- ② ヒントを出す人は、黒板に映し出された絵を見て、相手に英語で説明する。(説明時間は20~30秒)
- ③ 正解できたら、着席する。
- ④ 役割を交代する。

《工夫点》 ←ヒントを出す人

- ・ゲーム形式により、楽しく英語を話せるようにする。
- ・時間制限や提示する絵によって、難易度を調整する。
- ・目標文に続けて、多様な英語表現を引き出すことで、既習表現の活用につなげる。

【授業のポイント②】
☆さまざまな文法事項で活用することができ、3年間を通した帯活動になる。


(例) 教科書の登場人物あてクイズ


【入門期】単語による説明 boy, soccer, student.
【1年生】簡単な文による説明 This is a boy. He likes soccer..
【3年生】関係代名詞を使った後置修飾など This is a boy who likes soccer..

【授業のポイント】

○『“This is something+to 動詞の原形”の表現を用いること で英語で伝えることのできない「物」について説明できる』など、生徒にこの表現を学習する必然性をもたせる。

【授業の様子】

- ・教師が箱の中身についてその物自体を英語で伝えるのではなく、 “This is something+to 動詞の原形”の表現を用いて説明することにより、to不定詞の形容詞的用法について導入する。
- ・to不定詞の形容詞的用法は日本語にはない後置修飾であることから、教師によるデモンストレーションを通して、“What’s in the box?” “This is something+to 動詞の原形”の表現を数多く聞かせるinput活動を行い、この後に行うoutput活動につなげた。



【効果】

- ・箱を用いることにより、生徒たちの注目度が上がった。
- ・箱の中身に興味を持ちながら教師の英語を聞きとろうとする意欲が高まり、周りの生徒と相談しながら、新しい表現の英文も理解しようとよく聞いていた。

【授業のポイント】

○ “This is something+to 動詞の原形”を使い、多くのものを説明することによって、目標文の定着を目指す。

【授業の様子】

- ・なるべく多くoutputができるよう、全体ではなくグループ活動で行う。
- ・時間制限や提示する写真によって難易度を調節する。
- ・目標文に続けて、多様な英語表現を引き出すことで、既習表現の活用につなげる。

【活動の様子】



↑授業で使ったカード

- ・ペア 2 組の 4 人グループで行う。
- ・1 組のペアがカードの山から 1 枚引き、そこに描かれた物について、別のペアに英語で説明する。
- ※ 1 文目は必ず “This is something + to 動詞の原形” の表現を用いる
- ・既習表現を用いてさらにヒントとなる英文を伝える。

【効果】



This is something to drink but we can't drink it yet……

- ・ “This is something + to 動詞の原形” を確実に使えた。
- ・クイズ感覚で、楽しく既習事項を用いながら相手に伝わるよう英語を使って対話をしていた。
- ・ヒントについては、ペアで相談したり、辞書を引いたりしながら伝えていた。
- ・早く活動が終わったグループでは、ペアや順番を変えて、再度活動したり、オリジナルの問題を作ったりするなど意欲的に取り組む姿が見られた。

新しい問題を作ってみよう…



【留意点】

- ・計画的に自己表現（今回はオリジナルの問題を作る）の活動を入れると良い。そのために、カードでの活動時間を調整したい。
- ・各グループで作成したオリジナル問題を次の授業の冒頭で、クラス全体に向けて出題することで復習につなげたい。
- ・日本語を使ったり、単語だけで答えてしまったりするグループもあった。学習意欲が高まっているとともとらえられるが、活動前にペアや全体で練習したり、活動後にそれぞれのグループで用いた表現を確認したりする時間を設け、表現の幅を広げる機会を与えたい。

【授業のポイント】

○文構造については、活動後に生徒と確認し、文法についてももしっかりおさえる。

【授業の様子】

- ・本時の目標文について生徒とともに確認するため、ICT を活用し視覚的に提示する。本時に用いた表現を文字化し、『to 不定詞の形容詞的用法』と『後置修飾』についてしっかりまとめる。



【留意点】・文法事項の説明は簡潔にする。

- ・本時の活動で用いた表現（自己表現）を各自書かせることで「振り返り」を行う。